

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ

<http://www.kagyoren.jf-net.ne.jp/>



JF
香川漁連

高松市北浜町 8-25

TEL 087-825-0350

FAX 087-851-0699

謹賀新年

香川県漁業協同組合連合会

代表理事会長 嶋野 勝路



新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会業務運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、ここに厚く御礼申し上げます。

振り返りますと昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、5月に2類から5類へ移行し行動制限が撤廃され、各種イベントの再開、インバウンド需要の拡大等、個人消費を喚起する動きが活発化しました。一方で、ロシア・ウクライナ情勢や中東での新たな紛争など国際情勢の緊迫化に伴い、燃油や資材、食料や生活必需品の価格が高騰するなど、依然として厳しい環境下での漁業経営を余儀なくされております。今年は辰年、辰年は昇竜のごとく景気が良くなると言われており、日本の経済が回復することを願うばかりです。

このような中、県下の漁業を振り返りますと、漁船漁業では、世界経済の減速・円安等の影響による燃油や資材価格の高騰、海洋環境の変化等による資源の減少により、一部魚種を除いて漁獲量の減少が続く、漁家経営の収支は厳しい状況が続いております。一方、魚類養殖業では、天然ブリ、カツオ等の豊漁に押され、養殖ハマチ、カンパチの消費が進まず厳しい状況となっております。また、ノリ養殖業では、11月下旬に県下全体で本張りが始まりましたが、水温の降下が鈍く12月の生産が遅れたことにより、第1回乾海苔共販が中止となりました。今後は生産が順調に継続され、今漁期が豊漁となることを祈念いたしております。

本会といたしましては、引き続き県内水産業の振興に努めるとともに、漁船リース事業、新リース事

業、機器等導入事業等を推進し、地域全体の競争力強化を図ってまいります。併せて燃油及び配合飼料のコスト高騰対策である漁業経営セーフティーネット構築事業も推進してまいります。また、昨年8月24日より開始された福島第1原発ALPS処理水海洋放出に伴う漁業者支援事業についても推進していく所存であります。さらに、新たな資源管理の推進にあたっては、関係する漁業者の理解と協力を得た上で進めることとなっており、香川県、関係機関との協力、連携の下、推進するよう努めてまいります。

また、県産ハマチ・ノリ・イリコ等の消費拡大や販売促進を図る「さぬき海の幸販売促進協議会」事業においては、昨年9月に池田香川県知事出席のもと、流通懇談会及びPRキャラバンとして、4年ぶりに大阪市中心卸売市場を訪問、市場卸売業者等と情報交換し、大手百貨店において、県内水産物のPR活動を行いました。本年も県、関係団体、系統、業界が一丸となり県産水産物の販路拡大、知名度向上を一層推進してまいります。

今後も厳しい経営環境が予想される中、会員・所属員の経済的、社会的地位の一層の向上を目指して諸事業に取り組んで参る所存でありますので、会員各位をはじめ関係者諸賢におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げる次第であります。

最後に、皆様方の限りないご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶と致します。



香川県海水魚類養殖漁業協同組合

代表理事組合長 嶋 野 文 太

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当組合の事業運営につきまして、組合員の皆様を始め、関係官庁・関係団体の皆様には格別のご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

令和5年8月に新組合長に就任し5カ月余りが立ちましたが、昨年1年間を振り返りますと、新型コロナウイルスは5類に移行し、行動制限も解除されたものの、現在に至っても国内消費はコロナ前の水準に回復したとは言えない状況です。また、8月からALPS処理水の放出が開始され、中国への国産水産物輸出停止措置が取られている中で、11月にかけて3回の放出が行われており、輸出に頼る水産物は大打撃を受けておる状況にあります。

県内海面養殖では、ハマチ・カンパチ共に例年並みの種苗搬入数となりました。カンパチは例年通り12月中旬頃の完売となりましたが、ハマチは前年のモジャコ豊漁による全国的な在池過多や天然ブリの豊漁、他県の安価なフィーレの押込み等の影響を受けて荷動きが悪く、完売は1月中旬頃の見通しとなっております。

また経営面で見ますと、養殖餌飼料類や漁業資材や燃料類の前年来の価格高騰が継続し、国内養殖漁業全体の経営基盤が大きく悪化、魚価は上がっても極めて厳しい状況に置かれています。

今後、国が水産施策として進めております養殖業成長産業化総合戦略により、海外輸出拡大を視野に入れた国内生産目標の増産への見直しを進めていこうとしている中で、それに伴う餌飼料の確保や海外輸出への検討などが、県内養殖が生き残る上での最重要課題と考えております。

そのような中、海水組合としましては、餌飼料価格の高騰対策としてセーフティーネット構築事業や生餌調整保管事業等の推進にも引き続き尽力し、また産地間競争におきましては「さぬき海の幸販売促進協議会」と協力し、引き続き香川が誇るブランド食材であるハマチ3兄弟のひけた鯛、なおしまハマチ、オリーブハマチやオリーブマダイの販路拡大とブランド強化に積極的に取り組んで参りますとともに、令和6年度より新たなブランド魚として「オリーブサーモン」の生産を予定しております。

本年も、県水産課並びに香川県漁連、系統団体の皆様方からのご協力を仰ぎ、また、ご期待にお応え出来るよう、時代の荒波に負けることなく役員一同一丸となり、踏ん張っていく所存でございますので、何卒、尚一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、関係各位の皆様のご健勝とご発展を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

一般社団法人 香川県海苔養殖研究会

代表理事会長 西 口 正 弘

新年明けましておめでとうございます。令和6年度の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当研究会の事業運営につきまして、会員の皆様を始め、関係団体の皆様には格別のご支援を賜り誠に有難うございます。

さて、昨年を振り返ってみますと、1月中旬から県下全域で栄養塩が急激に低下し、色調の浅い製品が生産され2月下旬には、主要な浜がほぼ終了となりました。価格面では九州地区が不作の為、1月から2月にかけて単価が高騰したことにより、共販枚数2億1,664万枚、共販金額32億8,185万円、平均単価15.15円となり、共販枚数は前年並みですが、共販金額は前年を大きく上回り、また、無礼もなく共販を終了することができました。

近年は、海水温の上昇、鳥や魚による食害等に加えて貧栄養化の影響も大きくなり、海苔の生産環境は厳しさを増し、減産要素を多く含んでいる中、食害対策等が効果的に発揮されるよう実用化に向けた取り組みを継続し、貧栄養化対策について検討していきます。

また、新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、出前教室、PRイベント参加、商社訪問、着業検討会の開催等を実施することができました。今年もコロナ感染対策に則り、香川県産ノリの販売促進と消費者への知名度向上に努めてまいります。

本年度の海苔養殖業においては、採苗は9月26日、育苗は10月22日、本張りは11月20日から開始しました。11月中旬までの高水温の影響で育苗・本張りが例年に比べて遅れたことにより、第1回共販は、開催することができませんでしたが、今後の生産に期待したいと思います。

本年も、県水産課並びに香川県漁連、系統団体と協力しながら皆様のご期待にお応え出来るよう、全力を尽くす所存でございます。何卒、本年も変わらずのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、会員各位、関係者の皆様のご健勝と本年海苔漁期の豊作、並びに皆様が笑顔で漁期終了を迎えられることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



香川県無線漁業協同組合**代表理事組合長 嶋野 勝 路**

新年明けましておめでとうございます。令和6年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当組合の事業運営につきまして、組合員の皆様を始め、関係官庁・関係団体の皆様には、格別のご支援を賜り誠に有難うございます。

さて、昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着き、5月からは5類感染症に移行となり、飲食店に活気が戻り、外国人旅行者も多く見られるようになりました。

一方、漁業経営につきましては、ウクライナ侵攻による燃油・資機材価格の高騰や魚価の低迷、海洋環境の変化に伴う不漁、中国による水産物輸入停止措置など、依然として厳しい状況が続いております。

また、当組合におきましても、高齢化による組合員の減少や携帯電話の普及に伴う無線利用者の減少が続いており厳しい状況にあります。

漁業無線は災害時の避難情報や海難情報、操業の情報等を一斉送信でき、航行や操業の安全、漁業の効率化に繋がる情報手段として利点があります。依然として北朝鮮によるミサイル発射が続いており、11月には沖縄上空を通過したとの報告がありましたが、発射情報を自動で船舶局へ発信するシステムが各海岸局に導入されており、迅速な情報発信体制の整備に取り組んでおります。引き続き、組合員の漁業操業の安全性確保に努めてまいります。

本年も、本県の基幹漁業である漁船漁業の発展のため、漁業無線の円滑な運用に努めていく所存ですので、組合員各位をはじめ、関係官庁並びに関係団体からのご指導・ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、皆様方のますますのご健勝とご繁栄を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

**一般社団法人 香川県水産振興協会****会 長 嶋 野 勝 路**

新年明けましておめでとうございます。令和6年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は当協会の業務遂行につきまして、会員の皆様を始め、関係団体の皆様には格別のご支援、ご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、コロナウイルス感染症の対応が昨年5月8日から「5類感染症」に位置づけられたことにより、国内経済が回復するかと期待しましたが、円安の影響や海外での紛争による石油や食料品の高騰等、期待したほどの経済効果はありませんでした。しかし、イベント事業等制限緩和により徐々に再開される形で経済活動も緩やかな回復基調になっております。

国内水産業においては、温暖化の影響や燃油の高騰に伴う水揚げの低迷等、影響が続いています。また、物価の高騰による消費の減少が懸念されており、本年も水産業に与える影響が気になりなところでです。

令和6年度の本協会の事業といたしましては、引き続き4月初旬から12月中旬までマダコ、ヒラメ、クルマエビ、キジハタ、メバル等の重要魚種の種苗放流を継続実施し、水産資源の維持増大に努めてまいります。また、水産物消費対策事業では、魚食普及の推進が大きな課題となっており、県産水産物の食材活用を目的とした水産食育教室を開催するとともに、近年増加している海中転落をはじめとした海難事故については、関係機関と連携し、ライフジャケットの着用推進を目的とした海上呼掛け運動を実施し、会員の皆様への法令遵守の啓発に努めます。併せて、ネットローラーの巻き込み防止装置につきましても設置推進を図ってまいります。

漁場環境保全対策事業としては海浜清掃事業等の支援を行い、大量の海岸漂着ごみの回収に協力してまいります。

最後に、令和6年が事故無く豊漁となりますよう祈願し、併せて会員並びに関係者皆さまのご活躍とご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 坂本 雅信

あけましておめでとうございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

近年、社会・経済情勢の世界的な不安定化が続き、我が国の漁業・漁村を取り巻く環境においても、燃油・資材価格の高騰や海洋環境の変化等に伴う不漁、頻発する自然災害など、大変厳しい状況が続いております。

本会は昨年、これらの諸課題に対応するため、JFグループの先頭に立って、対策の確立などを関係要路に強く要請し、最終的には要望事項を網羅するかたちで、6年連続で3,000億円を超える予算を確保することができました。ここに、改めてご協力いただきました会員および関係者の皆さまに御礼申し上げます。

また、昨年は東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水について、我々が今まで求めてきた「海洋放出反対」の声は聞き入れられず、8月24日から政府主導で海洋放出が開始されました。さらに、海洋放出に端を発した中国等の過剰な輸入規制などもあり、全国の漁業関係者は日々、不安を抱えています。

漁業者が強く望んでいるのは、安心して漁業を継続することです。そのためにも、国には「漁業者に寄り添い、必要な対策を取り続けることを今後数十年にわたることも、全責任を持って対応する」という岸田文雄内閣総理大臣の約束を確実に履行し、漁業者をしっかり支えていただきたい。一方、我々も引き続き状況を注視していくとともに、「水産業を守る」政策パッケージを活用しながら、漁業者が安心して操業できるような環境づくりに努めて参ります。

また、中国などの輸入規制に対しては早期撤廃の実現が極めて重要な課題と認識しており、JFグループとして、漁業の成長、発展、食料自給率の向上のために国民を巻き込んだ国を挙げての魚食拡大を進めていきたいと考えております。

私は常々、「日本の漁業にはポテンシャルがあり、成長産業である」と申し上げてきました。日本の漁業は、もともと豊かな海に囲まれた環境で生まれた産業であり、魚を中心とした「魚食」、「和食」という文化を発展させてきました。我々は、こうした海や漁村の地域資源の価値や魅力をさらに活用・発信

して、地域の賑わいや所得と雇用を生み出すことが期待される「海業（うみぎょう）」の振興などとともに、「浜の活力再生プラン」を推進して参ります。併せて、10周年を迎えたプライドフィッシュプロジェクトなどを通じて、国産水産物の消費拡大の一翼を担っていく所存です。

今年は現行のJFグループ運動方針の取り組みの最終年です。引き続き、担い手育成、合併等組織再編、産地市場統合、販売事業改革などに取り組み、浜の構造改革を実現し、新たな運動方針の策定に繋げていくこととします。

最後となりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。

乾海苔初入札

令和5年度県内産養殖ノリ（乾海苔）の初入札会が、12月24日（日）高松市瀬戸内町の本会共販所において開催されました。



第1回共販の様子

今年の本張りについては、海水温の低下が鈍い為、県下全体で例年より遅い張り込みとなりました。12月上旬からの生産となりましたが、水温の横這い、食害、風波等の影響もあり、生産枚数が少なかった為、予定していた12月18日の入札は中止となりました。

初入札の出品枚数は937万枚、入札金額は1億6,990万円、平均単価は18.14円でした。12月末累計前年対比は枚数86%、金額65%、平均単価3.88円高でした。

これから県下全地区で本格生産に入りますが、今漁期の豊作を心より期待致します。